

# 足音

七月十五日  
石巻中一年  
学年通信No.二十一  
編集・発行  
鈴木 孝明

## 本を読もう

夏休み前の恒例の一つとして、図書の特例貸し出しがあります。例年は五冊だったのですが、司書さんのはからいで、今年はなんと十冊まで貸し出しOKとなりました。

国語の時間に貸し出しに行くと、両手にいっぱい本を抱えて図書室をあとにする子たちがたくさんいました。

もちろん、図書室を利用して本を読むのもいいのですが、お気に入りの一冊はいつまでも手元に置いておきたいもの。本は感性を育み、心を耕し、人生を豊かにします。ぜひとも書店に足を運び、本を手にとってみましょう。

そこで、石巻校区から最寄りの豊橋生まれの某有名書店に調査に行ってきました。この書店は夏が来ると店頭には有名な文庫本作品を大量に平積みします。その中から、おすすめの本を探してきました。全く個人的な趣向ですが、よかったです。参考にしてみてください。おそらく外れはありませんので。

### ○海の見える理髪店 萩原浩

家族がテーマの小説。人生において誰しもに訪れる喪失と、やがては訪れる小さな希望を描

いた作品集。一話完結型の短編集なので、長い読み物が苦手な人におすすめです。



### ○ソウルメイト 馳星周

犬と人間のつながりを描いた作品。こちらも短編集です。犬がいかに人間に寄り添い、また、犬も人間が必要だということを感じるとともに伝えてくれる作品です。犬好きには涙を避けては読めません。



### ○ツナグ 辻村深月

一生に一度だけ、亡くなった人に会わせてくれる「使者(ツナグ)」。さまざまなお抱えを出会った一夜がもたらすものは何か。こちらも涙を避けては通れません。



### ○傑作はまだ 瀬尾まいこ

引きこもりの作家のもとへ、生まれてからまだ一度もあったことのない息子が突然やってきた。突如始まった共同生活の中で、主人公にある変化が起き始める。ラストに明かされる真実に心動かされます。



### ○楽園のキャンバス 原田マハ

表紙の絵のタッチは見たことありますね。美術の教科書の表紙と同じものです。こちらは美術ミステリーとでもいう珍しい作品で、話にどんどん引き込まれます。本物の絵が見たくなります。



### ○さよならピュッシー 中山七里

こちらは音楽ミステリー。話のおもしろさはもちろん、描かれるピアノの描写は、本当に音楽を聴いているかのように引き込まれます。私はこの作品をきっかけにクラシックも聴くようになりました。



### ○重力ピエロ 伊坂幸太郎

家族のつながりは、遺産か、過ごした時間か。紹介した中では最も重たい話です。しかし、それを感じさせない会話の軽快さや見事な伏線によりどんどん話に引き込まれます。こちらは映画もすばらしいです。



まだまだ紹介したい作品はありますが、このくらいにしておきます。ぜひ読んでみてください。